慶應義塾 医学部新聞

発行所
三四会医学部新聞編集室
〒160―8582
東京都新宿区信濃町35
電話(3353)1211 内線64996
会員については会費に購読料が含まれる
発行人　武田　純三
毎月　1回20日発行

信濃町駅前・各種診療
慶應義塾大学病院
●外来診療時間＝午前8時40分～午後12時 午後1時～午後4時（特殊外来）
●電話＝03（3353）1211（大代表）

慶應義塾大学医学部三四会 平成28年度定例評議員会報告

去る6月11日（土）信濃町キャンパス2号館11階大会議室で平成28年度定例評議員会が開催された。吉野肇一議長（44回）による開会宣言に続き、平成27年度物故会員128名に対し黙祷が捧げられた。議長から北里先生ご生家の熊本地震による被害はないとの報告があった。

武田純三会長（52回）より挨拶が行われ、冒頭で熊本の地震に関連して三四会員（熊本県8名、大分県8名）の無事が報告された。また新病院棟建設工事の進捗、地域医師会活動を行っている三四会員との連携、女性医師キャリアアップへの取り組み、三四会ラウンジと三四会館構想等について述べられた。

第1号議案である平成27年度事業報告が古梶清和理事（63回）により行われ、ほぼ前年とおりに各種事業が行われたと報告された。第2号議案である平成27年度会計決算が渡辺真純副会長（64回）より上程され、収入・支出ともほぼ例年とおりであったと報告された。第3号議案である財産目録、会計事務処理及び財産管理監査報告が水野嘉夫監事（52回）により行われ、会計及び会計以外の業務が適正に行われたと報告された。第4号議案である募金委員会報告が末岡浩理事（59回）により行われた。現在の募金額は14億4200万円であり、残り2年間同じペースだと募金額が20億円にとどまる見通しであることが説明され、30億円の目標額達成のために会員のさらなる協力が呼びかけられた。

第5号議案の平成28年度事業計画がリー啓子副会長（60回）により提案された。事業内容は例年とおりであり、今年度も連合三田会で医学部講演会・赤倉山荘模擬店・ブラックジャックセミナーを行うことが説明された。第6号議案である平成28年度予算が渡辺真純副会長（64回）により上程され、収入・支出ともに前年と同水準を予定していると述べられた。

第1～6号議案は全て承認された。

続いて、岡野栄之医学部長（65回）より医学部・病院報告が行われた。

医学部に関しては、入学試験成績優秀者に対する奨学金制度、一貫教育校における医学部研究医枠推薦制度の新設、医学部創立100年記念誌の発行（予定）について報告された。病院に関しては、早期探索的臨床試験拠点（厚労省）、橋渡し研究加速ネットワーク（文科省）に加え、臨床研究中核病院（厚労省）への指定されたことなどが報告された。

医学部と病院の昨年度収支は18億円の黒字であった。

会長より高額募金者のうちこの贈呈式に参加した35名へ感謝状が手渡され、記念撮影が行われた。

続いて三四会社会功労賞・奨励賞の授与が会長により執り行われた。受賞者は次のとおりである。

三四会社会功労賞、三四会奨励賞受賞者たち
（会長・古梶担当副会長とともに）

平成28年度三四会社会功労賞

石黒　隆（整形外科学教室）
「指の関節周囲の骨折に対する治療に新時代を開いたこと。特に日常しばしば起こるいわゆる突き指＝Mallet fingerに〝石黒法〟として、世界中でゴールドスタンダードとして教科書に記載され、常用される治療法を確立したこと」

平成28年度三四会奨励賞

〈臨床分野〉

壽原　朋宏（麻酔学教室）
「低酸素応答によるCori回路制御機構の解明～低酸素センサーPHD2を標的とした新たな乳酸アシドーシス治療法の開発～」

山田　満稔（産婦人科学教室）
「ヒト卵子は1型糖尿病の体細胞核をリプログラムして2倍体の多能生幹細胞を樹立する」

木須　伊織（産婦人科学教室）
「非ヒト霊長類動物における子宮移植技術の開発および子宮移植の臨床応用へ向けた取り組み」

中島振一郎（精神神経科学教室）
「抗精神病薬減量後のドパミンD2/3受容体占拠率は最低限の血中濃度測定で予測可能である：オープン臨床試験」

〈基礎分野〉

長谷川一宏（内科学(腎内代)教室）
「糖尿病性腎症の新規病態機構―SirtlとNMNを介する尿細管―糸球体連関―の解明」

遠藤　仁（内科学（循環器）教室）
「網羅的解析手法を用いた脂質代謝物による新たな心保護機能の解明」

橋本　浩平（外科学教室）
「肺移植後の虚血再還流による肺障害における細胞死経路の関与の解明と、これを標的とした治療方法の開発」

新病院棟建設への多大な貢献者へ 感謝状を贈呈

新病院棟建設工事も着々と進行している中で、建設募金の活動も各母体を中心に活発化している。

150周年募金から現在の新病院棟建設募金に至る2016年4月までに、新病院棟建設への多大なご寄付を賜った方々に対し、6月11日三四会評議員会の席上で、感謝状が贈呈された。

募金活動へご貢献頂いた方々への感謝のしるしとして、記念バッジ、病院棟内の銘板の設置が予定されているが、これまでの特に多大なご協力を賜った方々に対してさらなる感謝の意を表して、三四会が感謝状を贈呈するに至った経緯がある。三四会員と、その関連する法人・団体、そして三四会を通してご協力を賜った法人・関係者を招待して贈呈式が三四会評議員会の席上で執り行われた。

既に、残念ながらご逝去された方々もあり、ご遺志を引き継がれるご親族の方々が出席された。この皆様の慶應義塾への深い愛情と、後に続く慶應医学の医療の発展への期待から、尊いご寄付をして頂いたことに、身の引き締まる想いであった。

この期待に応えるべく三四会員全員が志を共有し、新病院棟建設のための募金に参画して行くことが必要であることを、胸にうけとめる機会であった。

これからも、残された2年間の募金活動の期間に、ご協力を頂いた方々に対し毎年贈呈式が行われる予定である。これまでのご貢献に対し、改めて心からの御礼を申し上げる次第である。

感謝状贈呈式での集合写真

【感謝状対象者】（敬称略）

【1】三四会関係者・法人（五十音順）

氏　名
石山　節
荻野　和郎
荻野　淑子
大塚　太郎
小仲　正克
佐藤　暁子
神内　良一
高橋　純子
深川　富夫
深川　秀子
田口　義嘉壽
松本　喜久子
安井　真理

【2】三四会個人（卒回順）

氏　名	卒　回
伊藤　國彦（故人）	27
上原　豊	28
中村　公一（故人）	31
福田　和夫	31
北條　重久	32
北野　正躬	33
前田　昭二	33
川添　勇（故人）	34相当
比企　能樹	37
松本　康夫	37
山本　修三	38
龍　倫之助	38
平林　洌	39
加藤　正弘	39
河合　健	41
山田　淑儿	42
宇沢　充圭	44
吉野　肇一	44
大城　俊夫	44
井上　正人	44
北島　政樹	45
大塚　宣夫	45
菅沼　安嬉子	47
相川　直樹	47
山﨑　元	47
鹿島　晴雄	49
高橋　克彦	50
玉谷　青史	50
武田　純三	52
戸山　芳昭	54
末岡　浩	59
竹原　祐志	62
黒瀬　巌	65
深川　和己	68
近藤　健介	73
他ご芳名の公表を希望されない対象者３名	

【3】団体・法人（五十音順）

名　称
足利赤十字病院
慶應義塾大学関連病院会
慶應医学会
慶應医師会
慶應義塾大学医学部内科学教室同窓会
慶應義塾大学医学部准教授講師会
慶應義塾大学医学部三四会

特別寄稿

新たな専門医制度の実施に向けて

慶應義塾大学名誉教授　池田　康夫（47回）

2017年4月開始予定の新しい専門医制度は国民が注視するなか、現在最終の詰めの段階に入っている。平成26年5月に日本専門医機構が設立されて以来、各基本領域学会との頻回の協議を重ね、研修プログラムに基づく専門医育成の新たな仕組みが構築され、着々と新制度開始の準備が進められて来ていたが、ここにきて、日本医師会、四病院団体協議会等から「新制度の開始で地域医療の偏在が更に助長される懸念がある」ので新制度の開始を延期すべきであるとの意見が出されたことから厚生労働省社会保障審議会医療部会、更にはそのもとに設けられた「専門医養成の在り方に関する専門委員会」において、新制度の実施により地域医療の混乱が起こるかどうかの検証も含めて議論される事になった。残念ながらそれぞれの部会、委員会では建設的な意見の交換はなく、厚生労働大臣が「一度立ち止まり、医療関係者間で地域偏在の解消について話し合いをもつよう」にコメントするに至り、これまで新制度の構築に積極的に係わって来た専門医機構は勿論の事、各基本領域学会も来年度実施に向けた最終判断を下せずにいる。

専門医制度改革の基本理念は「専門医の質を担保出来る制度、患者に信頼され受診の良い指針になる制度」の構築であり、「医師育成の国際標準化」の大きな流れに沿うものでなければならない。

新制度では「研修プログラム制」が採用された。「研修プログラム制」とは、研修カリキュラムの下で目標を計画的に達成する為に「研修基幹施設」が中心となり複数の研修連携施設とともに研修施設群を構成し「研修プログラム」を作成する。専攻医はこのプログラムに従い、専門医資格取得までの研修を行うことになる。この仕組みが十分に機能しているかどうか？研修施設のサイトビジットを実施して評価する事になっている。

専門研修プログラム制は、従来の単一施設を研修施設として認定する「施設制」と比べて、地域医療の経験を促し、専門医の質を高め、より良質な医療を国民に提供することができる点で優れている仕組みといえる。研修プログラムの作成に当たっては、各基本領域学会では、地域医療への十分な配慮の上で、医療圏の多くの施設を研修施設群に含めるように努力を重ねて来ている他、地域の医療関係者や地方自治体との協議を重ね、新制度の開始により地域医療に混乱が起こらないように努力を続けている。

現時点で、19基本診療領域から約2900の研修プログラムが専門医機構に提出され、それぞれの領域の研修委員会による審査が既に終了している。質の高い専門医を育成する事を第一義に考えて作り上げて来た新専門医制度の来年度よりの実施に暗雲が漂っている事は大変残念であるが、内科学会、外科学会、小児科学会、産科婦人科学会、整形外科学会を始めとした多くの学会は既に来年度開始に向けた準備を整えている。私は6月に任期を終え、機構理事長を退任したが、新たに選出された理事会は地域医療関係者等と地域医療格差の是正に向けた協議を開始し、臨床研修医の不安を払拭する為にも早急に結論を出す必要がある。

確かに地域医療格差は是正しなければならない我が国の喫緊の課題であるが、この課題を専門医制度改革で解決しようとする事に私は大いに違和感を覚えている。これ迄にも厚生労働省は長年にわたって医師需給分科会等において地域偏在是正対策の議論をして来ているが、残念ながら見るべき成果は得られていない。新専門医制度の実施に際して、現状を決して悪化させないような配慮がなされており、本来の目的である「専門医の質の向上」を目指した制度として予定通り開始される事を祈っている。

横浜三四会会員の医療機関検索名簿について

横浜三四会では、地域三田会との連携強化を主目的に、市民へのＰＲも兼ねて、ホームページ上に会員医療機関を簡単に検索できるタグを設けました。

横浜三四会ホームページURL：

http//www.yokohamasanshikai.jp

（**横浜三四会**でも検索ヒットします）

に入っていただき、「横浜三四会会員所属医療機関」というタグをクリック下さい。関連病院ならびに、開業している会員の医療機関が各区別に一覧できます。それぞれの医療機関のホームページに移ることも可能です。

募金の声

慶應義塾の恩恵を受けた身として

独立行政法人　地域医療機能推進機構　埼玉メディカルセンター
御園生　与志（83回）

湘南藤沢中等部に入学してから医学部を卒業するまでの12年間を慶應義塾で学びました。卒業後は麻酔科に入局し、現在は医局関連病院で勤務しています。在学中には教師をはじめ所属していた體育會弓術部や医学部弓道部の先輩、卒業後は医局の先輩と多くの方々に育てて頂いて今の私がいると認識しています。一医局員として教室の名を汚さないように勤務することは勿論ですが、育てて頂いた御恩に報いる一つとして募金を考えています。

私自身、寄付に助けられた思い出があります。医学部時代、信濃町キャンパスの校舎スライドに伴い築40年の弓道場が取り壊されることになりました。当時の弓道場が部員および卒業生の資金で建てたものでしたので、移転に伴う建築費用は医学部に負担して頂きました。ただし大学の負担は建物のみで、その他は弓道部の負担となりました。当然、部員だけでは賄えませんので部の先輩方にも広く寄付を募りました。その結果、多くの温情を頂戴し、體育會弓術部の支援も受けて弓道場の使用に必要なものを揃えることが出来ました。当時、私は会計の担当者として移転に携わり関係する皆様から頂いた寄付の有難さを深く感じました。

卒業後、一定の収入を頂き私自身も寄付を始めてから気付いたことですが、私達が募った寄付に控除はなく、昨今の「ふるさと納税」のような見返りもありませんでした。育児や教育、健康を害した際に備えての貯蓄も必要なかなか、後輩のために寄付を下さったことに改めて感謝しています。

今回の「慶應義塾大学医学部創立100年記念事業　新病棟建設事業」と私の体験では目標としている額も募金をお願いしている人数も桁が違います。勿論、募金や寄付には強制性はありません。しかし、一人一人が生活を崩さない範囲で募金をすることで「塵も積もれば山となる」ように大きな額となるのではないでしょうか。慶應義塾で育った私達の手で事業を盛り立てて参りましょう。宜しくお願い申し上げます。

慶應義塾大学医学部生涯教育研修夏季特別セミナー

日　時　平成28年８月27日（土）午後３：00～６：00
場　所　ホテル椿山荘東京　１Ｆ「ボールルーム」
開会の辞　生涯教育研修セミナー委員会委員長　鈴木　則宏
挨　拶　医学部長補佐　安井　正人
講演会　『眼疾患治療アップデート：失明しない、快適に見るサイエンス！！』
モデレーター　坪田　一男（慶應義塾大学医学部眼科学　教授）
1　「失明率第一位　緑内障アップデート」
東京大学医学部眼科学　教授　相原　一
2　「糖尿病網膜症治療の現状と今後について」
北海道大学大学院医学研究科眼科学分野
准教授　野田　航介
3　「急増するドライアイとその対策」
杏林大学医学部眼科学　教授　山田　昌和
4　「目の老化とアンチエイジング医学」
慶應義塾大学医学部眼科学　教授　坪田　一男
参加費　無料
日医生涯教育制度参加証交付　２単位
（取得カリキュラムコード：０、36、37、76）
お問い合せ　慶應義塾大学信濃町キャンパス総務課内
生涯教育研修セミナー事務局
Tel：０３-５３６３-３６１１
E-mail：med-somu-３@adst.keio.ac.jp
セミナー終了後に意見交換会を準備しておりますので、ご臨席ください。

次回、第110回セミナー開催予定：平成28年10月８日

鑑賞知来

TEDは米国の非営利団体で、テクノロジー・エンターテインメント・デザインを中心とした人類の様々な活動の中から、広める価値のあるアイデアについて、その活動をしている人にプレゼンテーションしてもらい、TEDトークスとして世界に配信しています。先日は、様々な人々の人生を75年間にわたって追跡し、健康で幸せな人生をおくるための秘訣を解析したハーバード大学教授のプレゼンテーションでした。結論的には「よい人間関係を築くこと」が健康で幸せな人生をおくるための秘訣の一つということです。

よい人間関係とは、単にフェースブック上で何千人もの友達がいるとかではなく、個人が主観的に「つながっていると感じる」関係をいい、逆につながっていると感じられなければ、集団の中にいても、結婚していても、人は孤独になり得るということでした。

さて、例えば仕事で様々な人間関係がある中で、それぞれに「つながっていると感じる」関係を築けているだろうか、あるいは築くにはどうしたらよいか。先の研究では、よい人間関係を築く傾向にあるのは「柔軟性」のある人であり、他人をコントロールしようとせずに、他人の考えを尊重できることがよい人間関係を維持し、健康で幸せな人生にするのではないかということでした。私個人としては、教室幹事、臨床医、研究者、先輩あるいは後輩として、中間管理職なりに上下から柔軟な対応を求められる日々の中にいて、尊敬されるまでではなくても、まず頼られる存在でありたいと思います。そのために受容する心を大きく開き、柔軟な心で相手を認め、お互いに信頼しあえる関係ができたらと思います。マーク・トウェインが「人生はあまりに儚い、だからその人生に人と争ったりする時間などない」といったように、一回きりの貴重な日々をそのようにして大切に生きる、それが健康で幸せな人生につながるということかもしれません。

（形成外科学教室専任講師　矢澤真樹　75回）